

様式 3

議事録

全部記録  要点記録

1. 会議名 令和4年度 第2回 姫路市地域公共交通会議離島航路分科会	
2. 開催日時 令和5年1月24日（火曜日） 午前11時00分～午前11時50分	
3. 開催場所 姫路ポートセンタービル5階 503号室	
4. 出席者名 出席委員 池田一憲、池田田鶴、岸本成喜、喜多秀行、小林しま子、小林正和、柴田桂太、土谷理恵、畑野長利、福田弁一郎、丸吉浩、吉村裕行(50音順 敬称略)	
5. 傍聴の可否及び傍聴人数 傍聴可、傍聴人 なし	
6. 議題 【審議事項】 (1) 令和4年度 姫路港～坊勢島航路 地域公共交通確保維持改善計画に係る事業評価 【その他】 (1) 令和4年度公共交通事業者への支援状況について	
7. 会議概要	
事務局	<p>只今より、「令和4年度第2回 姫路市地域公共交通会議離島航路分科会」を開催いたします。</p> <p>本分科会の開催には、「姫路市地域公共交通会議離島航路分科会規約」第7条第2項の規定により、委員総数の半数以上の出席が必要とされております。本日は、委員14名中、半数以上の12名の出席をいただいておりますので、本会議が成立していることをご報告させていただきます。また、会議は、本分科会規約第7条第5項の規定により、公開することとなっておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。</p> <p>本分科会規約第6条第2項及び第7条の規定に基づき、会議の進行につきまして、会長よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>本日は、お忙しい中、本分科会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。会議次第に沿って、進行させていただきます。それでは、会議次第「2 審議事項」の「(1) 令和4年度 姫路港～坊勢島航路 地域公共交通確保維持改善計画に係る事業評価」について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【事務局説明】</p>
会長	<p>只今の事務局からの説明につきまして、ご意見・ご質問等はございませんか。</p>

委員	<p>2点あります。まず1点目ですが、初めての評価ということで、今後を見据えて評価の考え方を整理しておきたいと思います。資料1の4ページの上段に計画内容の1. 目標・効果とあり、目標を「旅客輸送量」とし、令和2年度の実績値に人口減少を見込んだ221,805人を確保することを目指すとありますが、これ自体はいいと思います。しかしながら、現実には、例えば感染状況が拡大した場合の人の動きや、燃油価格の高騰のような航路事業の外側にある不確実な状況による影響が非常に大きい。このような不確実でかつどちらに転ぶかわからないとき、例えば、感染状況がひどくなるのか、回復するのかの不確実であるような場合、どのような目標を設定するのがいいのか悩ましいところです。資料2の中で目標を下回る結果となったと記載があり、何かいけないことをしたように見えますが、変動の中で起こりうるということだと思います。外側の環境が変動している中で、目標設定をどのようにするのか事務局側のお考えと、評価する側のお考えをお伺いします。</p>
事務局	<p>目標の設定の際、コロナ禍の情勢やここまでの燃油高騰による外的要因をなかなか考慮できていなかったところもあると思います。評価指標になるようなものの考え方について、事務局としては、離島航路の全国的な厳しい状況を鑑みると、荒天による欠航は仕方ないにしても計画の運航が実施できたということであれば高評価のA評価としていきたいと考えています。</p>
委員	<p>評価はそれでよいと思いますが、目標をどう設定するのがいいのか。次年度の目標の際に、今回の実績を参考に、より適切に目標を設定するにはどうしたらよいか。評価する側はどのようにお考えでしょうか。</p>
委員	<p>生活交通確保維持改善計画策定の際に、どのように数値目標を設定すべきかということですが、一般論にはなりますが、基本的には過去3年の平均を目標値としていただいています。コロナ禍の中でどのように数値目標を決めるかというのは難しいところです。コロナによる減少率を加味することも一つの方法かもしれないが、国としてこうするというものはないため、過去3年の平均値を客観的な目標として設定することも含め、この場で考えていただければと思います。</p>
会長	<p>なかなか難しいことですが、こういった不確実な状況の中での目標で数値として表すのは難しいとは思いますが、他にいいアイデアがあればご意見をお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>これはまさに難しい話ですが、どういう要因を考えてこの目標にしたのかを書いておいたほうがいい。まずは様々な変動要因や努力目標を含めて設定した目標であるとしっかり書き込んでおいて、実際ふたを開けたらこうでしたとなるかもしれません。その中で何が違ったのか、当初想定していた変動要因とは違ったものがあるかもしれません。数値としては外れていても、実質的には達成しているということもあるのではないのでしょうか。事後的に判断できるような目標の立て方をするのもひとつだと思います。</p>

	<p>います。次に評価する側が目標値に達していないからと機械的にCと判断されないようにしてほしい。離島航路だけではなく陸上の公共交通でもそうですが、目標にこだわることが多い。目標からの乖離に過度に敏感にならずに、それを今後どう変えていったらいいのかということについて前向きに評価していただければありがたいと思います。</p>
事務局	<p>変動要因の件については数字的な目標は一方的になりがちですが、目標設定の際に想定した変動要因について記載をするようにします。</p>
委員	<p>次に2点目ですが、資料1の5ページの運航収益についてです。今回、運航収益は大幅な増となり、これは運賃値上げ実施による値上げ前の回数券のまとめ買いによるものであるということで、こういう現象は起こってくるだろうと思われませんが、これをどう評価するのかだと思います。資料にある中期的な視野で評価するというのはどのように考えればいいのでしょうか。</p>
事務局	<p>今回のまとめ買いはイレギュラーなものであり、回数券のまとめ買いがあった背景には、運賃を1,000円から1,300円に値上げを実施したということだと思います。事業者といたしましても収支を改善する一手ということで、思い切って値上げをされたということかと思います。中期的にみると来年度は大幅な欠損額が見込まれる状況です。運航収益を単純に過去3年の平均として計画するのではなく、トータルの観点で考えていきたい。資料には参考値として回数券収入のみの金額を記載しています。これをみますと約3年間分の回数券が購入されています。少なくとも3年間この影響が出ることを加味する必要があると考えています。</p>
委員	<p>加味することはよくわかりました。国がどう評価するのかというところですが、例えばある年は増収があり黒字になりますが、ある年はその反動でマイナスになり、全体で見るとマイナスになるような場合、中期的な評価をせずに年度ごとの評価をすることで事業者側に不利にならないでしょうか。3年平均をとったときの平均の赤字額に対する補助と、単年度の補助額が一致すればいいですが、これが事業者への補助が少なくなるというのは制度上の課題ではないかと思います。この航路の補助制度が中立的な制度設計になっているのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>平準化の部分になると思いますが、5ページの下にあるように回数券収入が令和4年度で約2億8,000万円、令和3年度で約9,000万円と3年分の収入を今年度得ています。令和5年度、6年度は減収になり欠損額が大きくなることは容易に推測できます。この件について本市では、例えば来年度の欠損額が倍になった場合、その分を補助していただけるのかといったことを神戸運輸監理部へ協議させていただいています。</p>
会長	<p>ご意見ございますか。</p>

委員	現在、協議中であり、先ほどの事務局の説明のとおりです。
会長	<p>他にご意見ございませんか。無いようですので審議事項について、お諮りします。</p> <p>「(1) 令和4年度 姫路港～坊勢島航路 地域公共交通確保維持改善計画に係る事業評価」について原案どおり、承認としてよろしいでしょうか。</p>
委員一同	異議なし
会長	<p>「異議なし」の声をいただきましたので、原案どおり、承認とさせていただきます。</p> <p>それでは次に会議次第「3 その他」ということですが、本日は、委員の皆様にお集まりいただいておりますので、せっかくの機会でございますので、ご意見・ご質問等ございましたら、ご発言をお願い致します。</p>
事務局	<p>昨年6月開催の本会にて情報提供させていただきましたが、今年度、地方創生臨時交付金を活用し、公共交通事業者に対しまして燃油価格高騰への支援を実施しております。その交付申請の状況をご報告したいと思います。2月末日までの実績に基づき補助金を交付する制度になっており、現時点では交付申請のみをいただいている状況です。公共交通全般で離島航路では4社から申請があり、合計で約6,000万円程度になっております。燃油価格高騰に対する支援となり、経産省が公表する燃料単価の令和2年度単価との差額により算出したものを支援いたします。</p> <p>バス事業者から2社、タクシー事業者から53社、鉄道事業者1社から申請があり合計2億円あまりの支援を予定しています。今後、2月末日の実績に基づいて実績報告書を提出いただき、補助金交付という流れになっております。</p>
委員	<p>地方創生臨時交付金に関してですが、地域公共交通事業者への支援に活用していただくよう各自治体をお願いをしています。自治体によって交付金を何に使うか異なりますが、姫路市においては多額の予算を地域公共交通の支援にあてていただいております。この場を借りてお礼申し上げたい。今後についてはまだ決まっていますが、またこのような話があれば引き続き活用をお願いしたい。</p>
会長	<p>他にないようでしたら、以上で、本日の審議を終了し、事務局に進行をお返しします。</p>
事務局	<p>委員の皆様におかれましては、熱心にご審議をしていただきまして、ありがとうございました。なお、本日の審議の結果に基づきまして、必要な手続きを進めて参りたいと存じます。それでは、以上をもちまして令和4年度第2回姫路市地域公共交通会議離島航路分科会を終了させていただきます。委員の皆様のご協力をもちまして、円滑に議事を進行することができました。ありがとうございました。</p>